

美術

美術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようとする。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、作品の主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。

生徒の学力の状況(課題)		授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	用具の使い方や、管理については適切にできている。技能は個人差が大きい。 構想を練る際に、自分なりの工夫を盛り込むことが苦手な生徒が多い。	机間指導をし、個別に指導をすることで、各自の課題を理解させる。 アイデアを練る段階でワークシート等を活用したり、タブレット端末等で資料の収集をしたりする。課題を事前に説明することにより、授業中だけでなく家庭でも思考しアイデアを検討する時間を設ける	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導をすることで、各自の問題を見つけ、適切な表現方法で作品を制作できるようになってきた。 ・タブレット端末を活用し、作品の資料収集の仕方を学ぶことができた。
第2学年	表現したいことを適切に表現できない生徒が多い。 構想を練ったり、発想をしたりすることが苦手な生徒が多い。	机間指導をし、個別に指導をすることで、各自の課題を理解させる。 課題を事前に説明することにより、授業中だけでなく家庭でもタブレット端末を利用し、アイデアを検討する時間を設ける。	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導をすることで、各自の問題を見つけ、課題を理解し適切な表現方法を見つけられるようになった。 ・タブレット端末を活用し、作品の発想や構想に生かすことができる生徒が増えてきた。
第3学年	用具の使い方や、材料などの管理は適切にできているが、技能は個人差が大きい。 美術や美術文化に対して自分の見方や考え方をもつことができるようになってきている。	机間指導をし、個別に指導をすることで、各自の課題を理解させる。 アイデアを練る段階で、タブレット端末で資料の収集をし、多様な考え方や表現方法があることを理解させ各自の作品に生かせるようにする。	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導をすることで、各自の問題を見つけ、課題解決をし、工夫して作品を制作できるようになった。 ・タブレット端末で資料を収集し、作品の発想や構想を広げ、作品に生かすことができるようになった。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
【全学年共通】アイデアを練る段階で、タブレット端末を利用し、資料を収集したり、いろいろな表現技法を検索したりすることで、表現の幅を広げられるように指導する。	【全学年共通】毎授業ごとに短期的な目標を立て、作品完成までの長期的な目標も立てることにより、計画的に制作を進められるように指導する。